

平成24年12月26日
総務局

東京都防災会議地震部会(南海トラフの巨大地震に係る検討 第3回)
議事概要について

1 地震部会の概要

日時：平成24年12月10日(月) 10:00~12:00
場所：東京都庁第一本庁舎北塔42階 特別会議室C
出席者：平田部会長、中林部会長代理、佐竹委員、翠川委員、安田委員
宮寄危機管理監、箕輪企画調整担当部長、臼井計画調整担当課長ほか

2 議事概要

南海トラフの巨大地震による被害想定に関し、各委員から下記のとおり意見が出された。

<地震動の震度分布等について>

- 震度分布の計算では、手法の違いなどにより結果が異なることはある。安全側に見て、強震波形計算による手法と経験的手法(距離減衰式)の計算結果を組み合わせた震度分布を使用するのは一つの考え方であると思う。
- 都にとって最大の震度となるように、二つの計算結果を組み合わせた震度分布に基づき被害想定を行う。
- 液状化については、地震の継続時間が長くなることが予測されるため、東日本大震災の被害実態を反映した補正係数を採用することが考えられる。

<想定手法等について>

- 定性的な想定になるとは思うが、道路被害の影響に関する検討も必要ではないか。
- 島しょ部における過去の大火や東日本大震災における島の津波被害事例で、どのような被害があったかなどの記録を調べておけば、被害想定への参考になるのではないか。